

# 資源評価調査事業-II

## 海況

丸山拓也・小林智彦・久野正博

### 目的

本県沿岸の海況の調査研究を行い、漁場の形成にかかる海況情報を迅速に漁業関係者に提供することによって漁業の操業効率化を推進し、漁業経営の安定化に資することを目的とする。

### 方法

毎月1回、調査船「あさま」にて熊野灘沿岸定線観測の19測点および伊勢湾浅海定線観測の16測点において海況調査を実施した。定地水温は、原則平日の午前8時半に志摩市浜島の水産研究所および鈴鹿市白子の鈴鹿水産研究室の地先にて観測した。

### 結果及び考察

詳細は令和4年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)で報告するので、以下は概要を記す。

#### 1. 海流

黒潮流路は平成29(2017)年8月下旬に黒潮が大蛇行流路となり、令和4(2022)年度も継続した。

黒潮は、4月は上旬に蛇行北上部が熊野灘に接近し、中旬～下旬には大王崎にやや接近した。5月は蛇行北上部がS字を強め、中旬～下旬にかけて熊野灘に接岸した状態が続いた。6月は熊野灘沖を30°N前後まで南下した後、御前崎に向かって北上した。7月は上旬に蛇行北上部が一時的に大王崎に接近し、下旬には蛇行北上部のS字が強まり、8月は熊野灘にかなり接近した。9月は黒潮の蛇行北上部が大王崎にかなり接近し、流型が非典型的A型となると、遠州灘沖の西編部が切離して暖水渦となった。10月は中旬に典型的A型となった。11月は上旬に蛇行北上部が御前崎～石廊崎に接近し、下旬にやや東に開いた。12月は蛇行北上部が御前崎～石廊崎に向かって北上する流路でおおむね安定した。1月は下旬に蛇行北上部が東に開き、遠州灘に残された暖水が小暖水渦を形成した。2～3月は蛇行北上部が、おおむね御前崎に向かって北上し続けた。年度を通じて蛇行最南下部は熊野灘～遠州灘沖の31°N以南に位置することが多かった。

#### 2. 熊野灘

熊野灘沿岸定線観測では19測点で海況調査を実施したが、熊野灘の水温傾向の評価においては、黒潮流型がN型時に黒潮の影響を直接的に受けやすい南部2測点(S<sub>tn.29, 30</sub>)を除いた17測点の平均水温の年間偏差を用いた(図1)。熊野灘沿岸における水温は、年度を通して高め基調で経過し、黒潮系暖水の影響が強い時にかなり高めとなった。

熊野灘の海況について、4月は熊野灘に黒潮系暖水が波及し続け、5月は中旬～下旬にかけて黒潮が接岸した。6月は下旬に黒潮接近の影響で熊野灘の東沖合を中心に高水温傾向となった。7月は熊野灘に黒潮系暖水が流入し、高水温傾向となった。中旬には強い南風によって熊野灘南部のごく沿岸で沿岸湧昇が生じたが、数日で回復した。8～9月は黒潮系暖水に覆われ、熊野灘は高水温傾向となった。10月は下旬まで東海沖に形成された小暖水渦が熊野灘に接近し、小暖水渦の消滅後も暖水波及が続いたため、熊野灘は高水温傾向となった。12月は中下旬に暖水波及の勢いが弱まったことに加えて気温も下がり、熊野灘の水温は年間並となった。1月は熊野灘で高水温傾向が続いた。2月は中旬にかけて小暖水渦が熊野灘を南下したため高水温傾向となったが、2月下旬から3月上旬は年間並となった。3月中下旬は黒潮内側反流の波及もあって熊野灘は高水温傾向となった。

浜島の定地水温は、4月はやや高め～かなり高め、5月はやや低め～かなり高め、6月はやや低め～高め、7月は年間並～高め、8月は年間並～高め、9月は年間並～かなり高め、10月は年間並～かなり高め、11月はやや高め～かなり高め、12月は低め～高め、1月は高め～かなり高め、2月は年間並～かなり高め、3月はやや高め～かなり高めで経過した。なお、3月は22観測日中13日で同日の過去観測最高値を更新するなど、顕著な高水温であった。

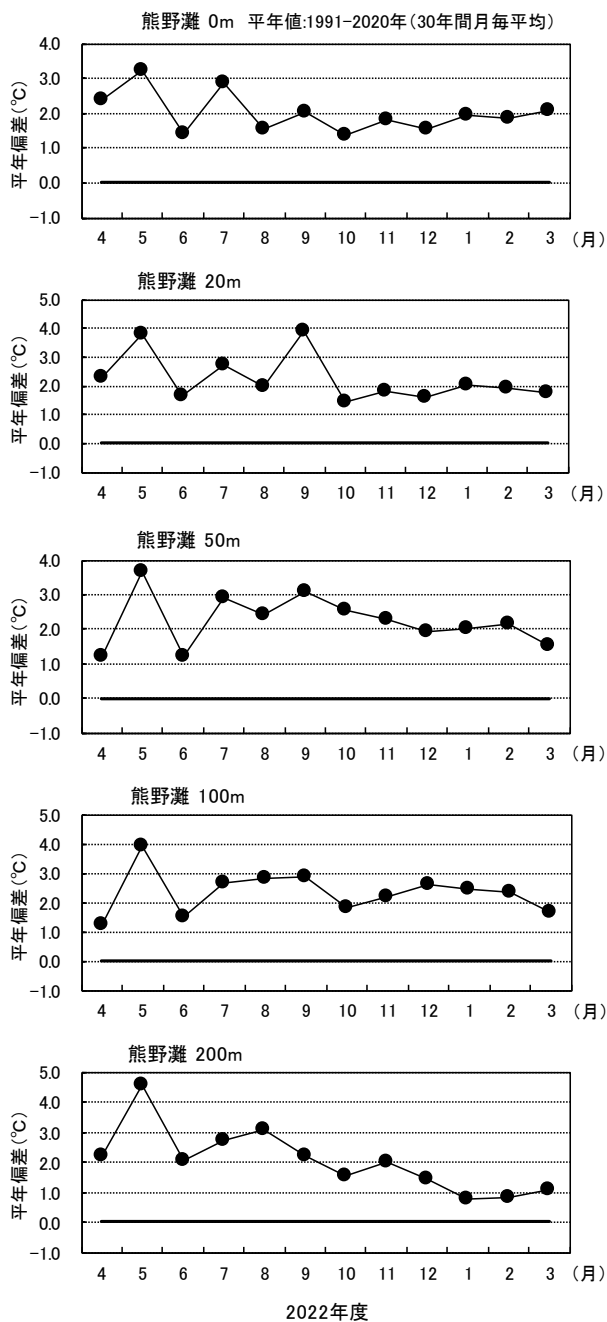


図1. 熊野灘沿岸定線観測における17測点平均水温の  
平年偏差

### 3. 伊勢湾

伊勢湾の水温は、4月は表層でかなり高め、底層はやや高め、5月は表層、底層ともに高め、6月は表層で平年並、底層はやや高め、7月は表層でかなり高め、底層はやや高め、8月は表層でやや高め、底層で低め、9月は表層、底層ともに高め、10月は、表層は高め、底層はやや高め、11月は表層で平年並、底層でやや高め、12月は表層、底層ともに高め、1月は表層、底層ともにやや高め、2月は表層、底層ともにやや高め、3月は表層でやや高め、底層は平年並で経過した。

塩分は、4月は表層でやや高め、底層で平年並、5月は

表層でやや高め、底層は平年並、6月は表層でやや高め、底層で平年並、7月は表層でかなり高め、底層で平年並、8月表層は平年並、底層でやや高め、9月は表層でかなり低め、底層でやや低め、10月は表層でかなり低め、底層はやや低め、11月は表層でやや高め、底層で平年並、12月は表層と底層で平年並、1月は表層でやや高め、底層で平年並、2月は表層、底層ともに平年並、3月は表層でやや高め、底層は平年並で経過した。

DO(溶存酸素濃度)は、4月は表層、底層ともに平年並、5、6月は表層、底層ともにやや低め、7月は表層でかなり高め、底層は平年並、8月は表層でやや低め、底層でやや高め、9月は表層で平年並、底層はやや高め、10月は表層でやや高め、底層はやや低め、11月は表層で平年並、底層で高め、12~2月は全層で平年並、3月は全層でやや高めで経過した。

貧酸素水塊について、底層では6月8日に湾中央部で2mg/L以下となる貧酸素水塊が観測され、7月13日の観測では、三重県側(伊勢湾西岸)に張り付くように広がっていたが、11月18日の観測では観測されなかった。

白子の定地水温は、4月はやや高め~かなり高め、5月はやや低め~かなり高め、6月は低め~かなり高め、7月は平年並~高め、8月は低め~かなり高め、9月は平年並~かなり高め、10月はやや低め~かなり高め、11月は平年並~高め、12月は低め~高め、1月はやや低め~高め、2月は平年並~やや高め、3月は平年並~かなり高めで経過した。

### 関連報文

三重県(2024):令和4年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)